

■原六郎 志士、銀行家、実業家。生野の変で敗れ潜伏・改名、維新後、多方面で活躍。“横浜正金銀行中興の祖”。

はらろくろう

天保改革弾圧1842=

但馬国朝来郡佐中村で、鎌倉時代からの大地主で製糸業の進藤家の第22代目当主右衛門長廣の六男四女の末子に生まれる。もとの名は進藤俊三郎長政。

阿部正弘首座1845= 3歳：

尊徳報徳論・1851= 9歳：

ペリー来航・1853=11歳：この頃、但馬聖人と称えられる儒学者池田草庵の私塾{青谿書院}に入門、北垣国道らとともに学ぶ。

当時、尊皇攘夷派の活動が盛んであり、尊皇攘夷論を唱えるようになる。しかし、師池田草庵は学問に政治活動は邪道と考える人であったため、意見が相違し北垣らとともに青谿書院を脱退し、京都で平野国臣等と親交を結んだ。

桜田門外変・1860=18歳：

8月18日政変 1863=21歳：生野の変に武器周旋方として参加。京の四条木屋町の具足屋大高又次郎のところで武器調達をするため、京の旅籠花屋に宿泊しているときに池内蔵太(後に海援隊士)に会い、天誅組大和破陣を聞かされ、北垣らとともに一旦、生野挙兵中止論を説くが、南八郎らの強硬論が勝り、挙兵は決行された。京で武器を調達していたが搬送の途中で生野破陣を知り、佐中経由で美作路から因州鳥取へ逃れた。同年、情勢を探るべく、京、江戸へ入り、鳥取藩士の松田正人、河田左久馬、千葉重太郎らの庇護を受ける。当時は、生野の変に参加した者への探索が厳しく、探索から逃れるため、松田正人が選んだ“原六郎”という名に改める。

禁門の変・・1864=22歳：桶町千葉道場に潜伏し、坂本龍馬らと友人になる。当時、千葉重太郎の道場には、勤皇志士らが集まっている。探索されそうになった重太郎は、道場の全員を避難させ、重太郎の人の品を知る老中板倉勝静の擁護で事なきを得た。のち、鳥取藩士でもあった重太郎とともに戊辰戦争を戦うことになる。その後、赤坂檜町の長州藩邸に移ったが、さらに幕府の探索が厳しくなったため、海路で長州に入る。

薩摩藩士密航1865=23歳：高杉晋作の紹介で、長州藩の遊撃隊に加入し、四境戦争では高杉に従って小倉口の戦いに従軍。

薩長同盟・・1866=24歳：戦役が一段落すると、普門寺塾(三兵塾)を母体に山口に創設された陸軍学校(明倫館)に入学し、大村益次郎から洋式陸軍の手ほどきを受けた。その後は長州藩の軍に属し、討幕運動に関わる。

明治維新・・1868=26歳：戊辰戦争では、鳥取藩に附属する形となった丹波国桑田郡山国村の志願農兵隊山国隊の司令士として、関東、東北各地を転戦。特に上野戦争(彰義隊の乱)で、覆面部隊として上野山に潜入し官軍を勝利に導く戦功をあげ、官軍に帰順した旧幕兵で構成された帰正隊隊長として、五稜郭の戦いまでを戦い抜く。

戊辰戦争終・1869=27歳：鳥取藩士に取り立てられる。鳥取藩兵の洋式化に従事。さらに、新政府に差し出された鳥取藩軍に入り、第1回天覧閱兵式には歩兵大隊長として参加、「兵の指揮、誠に見事也」と絶賛された。

初の日刊新聞1870=28歳：太政官が30万石以上の大藩に選出させた海外官費留学生として、

廃藩置県・・1871=29歳：渡米。短期留学で満足できず、官費が打ちきられてもアメリカに残り、苦労の末にコネチカット州にあるイエール大学に入学して、経済学・金融学を学ぶこと2年。新島襄と知り合う。

明治6年政変 1873=31歳：イギリスに渡り、キングス・カレッジで経済学・社会学・銀行学を修め、

西南戦争・・1877=35歳：帰国。

大久保暗殺・1878=36歳：\*旧鳥取藩主池田家を中心にして、第百国立銀行を設立し、頭取となる。

・・・・・1880=38歳：東京貯蔵銀行を設立、頭取となる。

明治14年政変1881=39歳：

岩倉具視没・1883=41歳：\*大蔵卿松方正義の要請を受け、破綻の危機に陥っていた横浜正金銀行の第4代頭取に就任。まず不良債権や損失を調査確定し、銀貨と紙幣とを交換した差益で補填をはかり、

内閣発足・・1885=43歳：欠損を解消。外国為替の取組も急増し業務拡大には資金不足であったため、

帝國大学始・1886=44歳：欧米に出張後、

国民之友始・1887=45歳：\*資本金を600万円に倍額増資した。一方、正金銀行を外国貿易業務に特化するため、松方らと協議し、勅令第29号横浜正金銀行条例の制定を実現。また、5年前に創業した日本銀行との関係を、正金銀行が外国業務を担当することで整理し、以後、日本銀行と横浜正金銀行とが両輪となって日本の財政と金融を牽引していく基礎を確立した。この7年に及ぶ経営再建により、横浜正金銀行中興の祖と呼ばれることになる。

初の対等条約1888=46歳：奈良吉野の山林地主で同志社の新島襄の後援者であった土倉庄三郎の長女富子(同志社女学校出身)と、京都祇園の中村楼で、新島の司式、京都府知事北垣国道の媒酌により結婚。新島襄が同志社に大学を設立運動のため上京した際、井上馨の呼びかけに、渋沢栄一と同じく最高額を寄付。その他、多額の寄付を繰り返し、新島から恩人と感謝される。

帝国憲法発布1889=47歳：

足尾鉱毒始・1891=49歳：欧米に出張。

日清戦争始・1894=52歳：帝国商業銀行会頭、

白馬会・・・1896=54歳：

この他、日本興業銀行、台湾銀行、勸業銀行の創立委員を務め、金融業以外にも横浜船渠各会社長、東武鉄道、山陽鉄道、播但鉄道、総武鉄道、九州鉄道、北越鉄道、北海道鉄道、京仁鉄道、台湾鉄道、東洋汽船、東京電燈、帝國ホテル、汽車製造、猪苗代水力発電、台湾製糖など、多数の企業を設立し、事業に多大の貢献をした。また義父土倉庄三郎に但馬の山林整備と事業化を要請した。

日露戦争終・1905=63歳：

明治天皇没・1912=70歳：富士製紙社長に就任、

第一次大戦始1914=72歳：

本格政党内閣1918=76歳：富士製紙社長を退任、

大暴落・・・1920=78歳：東武鉄道取締役を退任。\*第一線から引退。

原敬首相暗殺1921=79歳：

地元の村立山口小学校(旧朝来町)に講堂兼体育館を進藤家当主である兄丈右衛門長厚とともに寄付し、少年期に学んだ師池田草庵の私塾青谿書院の財団法人化のための資金を北垣国道とともに寄付。また幕末の生野の変で敗れて21歳で自刃した同志南八郎ら17名を祀る招魂社建立にあたり、多額の寄付を寄せ、建立式に出席した。晩年、妻の影響から夫婦でキリスト教の洗礼を受けている。

関東大震災・1923=81歳：

国際連盟脱退1933=91歳：没した。

旧邸跡は東京都品川区御殿山ガーデンと原美術館になっている。